

農 学 部

< 農学部の理念と目標 >

* 理念

岩手大学農学部は、農業、生命、環境、動植物に関連して現代人が直面する諸課題の解決に向け、高度な専門的知識とリーダーシップを持って行動することができる人材を育成する。

また、寒冷地における生物生産・管理・利用に関する総合科学技術としての生命農学の体系化をはかることにより、地域社会への貢献を推進する。

* 教育目標

農学部は、人間の生活にとって不可欠な生物生産や地域環境、社会との関わりを理解する総合科学教育の実践を目指す。

加えて、幅広い知識と経験に基づく課題探求能力、周囲との交流対話に根ざした問題解決能力を併せもつ人材を育成することを目標とする。

* 研究目標

農学部は、独創的な国際レベルの学術研究、そして地域社会との連携による新分野の研究を追求する。具体的には以下の視点からの研究の推進と質的向上を目指す。

- 1) 持続可能な地域農林水産業と豊かな社会の形成に対する貢献
- 2) 地球規模の問題を視野に入れた課題の解決
- 3) 生物系地場産業の創出・発展への積極的な取り組み

* 社会貢献目標

農学部は、地域社会に存在する教育、研究ニーズを積極的に掘り起こし、学部の教育・研究課題として受け止める一方、その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。この目標実現のためには、日常的に地域社会と農学部の交流を十全にし、その関係構築の土壌形成に努めることとする。

さらに、地域社会から国際社会へ教育研究の場を広げ、知的資産を還元し社会に貢献する。

< 教育目的 >

農学部は、広い教養と寒冷地農学を中心とした農学の諸問題を解決できる能力を身につけ、地域からグローバルに至る広く社会で活躍できる農学系技術者を養成する。

また、農学系の諸分野における基礎及び専門知識を備えるだけでなく、課題解決能力、コミュニケーション能力を身につけて社会の要請に応えることのできる人材の養成を目的とする。

< 各学科教育目的 >

植物生命科学科

植物生命科学科は、植物生産学及び生命科学に関する専門知識と技術を身につけ、地域社会における農学・生命科学分野のリーダーとして活躍する専門職業人並びにグローバルな視点を持ち国内外で活躍できる人材の養成を目的とする。

応用生物化学科

応用生物化学科は、化学的な視点から生命現象や食品素材の機能性の解明に取り組み、生物資源の有効利用と、高付加価値食品や健康機能食品の開発、生物圏の環境修復などを進め、地場産業の発展及び医薬品、食品、化学資材に関わる新産業の創出に寄与しようとする人材の養成を目的とする。

森林科学科

森林科学科は、東北地方の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用について総合的に学習し、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材の養成を目的とする。

食料生産環境学科

食料生産環境学科は、農業と水産業を基盤とする地域の活性化と持続的発展のため、人間活動と自然環境の調和をはかり、限られた農地・陸水と広大な海洋の資源を持続的に利用・保全するための教育研究を行う。農村空間と農業生産基盤の整備、及び防災機能を付加した発展的更新に関わる分野、食料の生産・保存・加工・流通にわたるフードシステムの高度化と食産業の振興に関わる分野、並びに広範な水圏生物の生態解明と水産資源の利活用と保全の方法に関わる分野を学び、グローバルな食料需給とローカルな資源循環の視点から地域産業と地方創生を担う人材の養成を目的とする。

動物科学科

動物科学科は、産業動物（家畜）、実験動物、野生動物、展示動物などの様々な動物種を対象に、人と動物が共生する心豊かな地域社会の創造を目指し、効率的かつ機能的な動物関連産業の発展と生命科学に関する高度な科学技術の開発に貢献できる人材の養成を目的とする。